

リートフェルト展「職人であり続けたオランダ人デザイナー、リートフェルトのイスと家」
2004.1.17 SUN - 3.21 SUN 府中市美術館・2004.3.28 SUN - 5.23 SUN 宇都宮美術館
Retrospective Rietveld: Homage to Red and Blue



リートフェルトの平行定規 Rietveld's Parallel-motion ruler

製作年月日：不詳（推定1917～1925）
木製、金具（材質不詳）、ワイヤー
設計・製作：G.T.リートフェルト
第一所有者：G.T.リートフェルト
第二所有者：ハネック・シュロイダー（シュロイダー夫人・次女）建築家として独立した際、譲り受ける。
第三所有者：不詳（ハネックの友人）1999年ユトレヒト市立中央美術館に寄贈
現在：ユトレヒト市立中央美術館所蔵



Computer Graphics

2D-Drawing : VectorWorks 10.5
3D-Modeling : VectorWorks 10.5
3D-Rendering : VectorWorks 10.5+RenderWorks
HardWare : PowerMac G4 1.2Ghz
Produce : Susumu Igarashi / Architect, SpaceShop Inc. <http://www.spaceshop.co.jp>

リートフェルトの平行定規そしてBlogを巡る冒険

きっかけは2003年夏の三岸好太郎展だった。三岸好太郎のアトリエはバウハウスから帰国したばかりの山脇巖の設計によるものだが、それはまったく関係ない。たまたま三岸好太郎の蝶の絵を府中市美術館に見に行った際、展覧会予定表にあったリートフェルト展の文字が記憶に残った。それ以降、ときおり府中市美術館のHPにアクセスしリートフェルト展の情報が掲載されていないかチェックした。

リートフェルト展の情報をBlog@MADCONNECTIONにエントリーしたのが2004年1月16日、展覧会の前日である。リートフェルト展に出掛ける予定のつかないまま過しているうちに、3月1日のaki'sSTOCKTAKINGに秋山東一氏がリートフェルト展の報告をエントリーする。そして3月5日について「リートフェルトの平行定規」がエントリーされた。この日から僕らの「リートフェルトの平行定規」とBlogを巡る冒険が始まった。

そして遅ればせながら3月11日、府中市美術館を訪れ「リートフェルトの平行定規」に直面した。コンパックスを見ながら、目測によるスケッチをしていたら係員に注意を受ける。メカニズム等を理解したつもりでいたが、製図板の裏側をチェックしていないことに気付く。翌々日、府中市美術館での講演を聴講するついでに再度、目測によるスケッチをするが、限界を憶え、美術館側に取材を申し込む。その時、初めてリートフェルト展の企画は宇都宮美術館が主催されたことを知った。

府中市美術館の学芸員からは宇都宮美術館の担当者を教えられ、直接連絡するように指示を受ける。（前後して、自宅介護していた母が歩行困難となり、入院、転院等で予定が付かなくなる。）

3月22日、MADCONNECTIONに「リートフェルトの平行定規」の目測スケッチをエントリーする。

3月31日、MADCONNECTIONの「リートフェルト展・2」に宇都宮美術館・学芸員の橋本様より初めての書き込み。

4月2日、橋本様からの書き込みで「リートフェルトの平行定規」がリートフェルト自身による製作であることが判明。

4月3日、改めて宇都宮美術館・学芸員の橋本様に取材の申し込みをする。

4月5日、MADCONNECTIONに「リートフェルトの平行定規」の目測スケッチによる3Dモデルをエントリーする。

4月13日、「リートフェルトの平行定規・調査団」秋山東一氏、私の二名にて宇都宮美術館に出向き、実測調査をする。

5月12日、MADCONNECTIONに「リートフェルトの平行定規の秘密・ループの法則」をエントリーし、そのメカニズムを解説。

5月22日、秋山氏、MECCANO（メカノ）で作成した「リートフェルトの平行定規」のモデルをエントリーする。

5月23日、「リートフェルト展」最終日のイダ・ファン・ゼイル氏の講演を聴講、展覧会終了後の撤収準備中、最終の実測調査。

この「リートフェルトの平行定規」の実測と記録はBlogの力によって可能になったと云える。